臺灣新民報 夕刊
五月十二日
夕刊定価一部一錢
（昭和十四年五月十三日 土曜日）（昭和十四年五月九日第三種郵便物認可）
臺灣日日新報 第一万四千六十四號 A 二 (一)

敵の二十數箇師を我が包圍軍が壓縮
運命は今明日に迫る

中支軍報道部長談

【漢口十一日發同盟】中支軍報道部長談――わが攻略基点より約一百粁離れた揚東北方角において時計の如くわが皇の正確且つ迅速なる包圍機動の實施により九日夜において先づわが皇の前衛に突げられた敵は九箇師に達し、尚わが包圍圈内に逃げ込んだ敵の中の數箇師の如き十數箇師の運命も全く時間の問題である、既にもう次わが皇の行動は敵を攪らせてわれに引きつけ、特に主力を随意東北方の行動に自由なる山地帶に誘致して爾後の機動を失はしめ、この間主力をもつて漢水附近安陸東北地區に穴を穿ち、機到るや敵の如く敵主戰地帶を突破し侯馬の如く南陽西北に進撃し、もつて先づ敵をその根據地より完全に遮斷し、次いでこれを包圍し、更に四圍より包圍殲滅戰に轉じ敵の殲滅を期するの

至妙なる作戰

にほかのである、敵は勿論これんとする抗戰力を極度に發揮するため四月攻勢を内外に宣傳し、戰勢を誤つて殲滅國の機動を圖示、一面國内的にも既に命脈に瀕せんとする戰局を糊塗せんとすることは敵が總力戰を以て第一線と銃後とを通じ敵は我皇の攻擊に依り多大の損害を受け、南昌西方地區に侵入せる敵部隊（兵力不明）は目下敵方面より前進せる我軍に包圍殲滅せられたり、この方面四月二十六日以來五月十日に至る戰果判明せるもの敵遺棄死體二千九百二十（内將校五十二名）にして鹵獲兵器、馬匹多數を數ふ

南昌方面

四月二十日頃我が第一線の眼を逃れて南昌南方地區に侵入せる敵殘兵の主力は我軍の殲滅する所となり終局において撤退を試みたり、其間我が第一線と銃撃せる敵は我軍の攻擊に依り多大の損害を受け、南昌西方地區に侵入せる敵部隊（兵力不明）は目下敵方面より前進せる我軍に包圍殲滅せられたり、この方面四月二十六日以來五月十日に至る戰果判明せるもの敵遺棄死體二千九百二十（内將校五十二名）にして鹵獲兵器、馬匹多數を數ふ

臺新、靖安方面

臺新方面に於ては南昌攻略戰の敗殘の敵並に長沙方面より新に增援せる敵が同方面に集結し新春回の意圖を示しありしが、我軍は兵力を增強して四月二日總攻を加へたり、其後敵は依然として增援を續行せるも我軍の爲に撃破せられ、靖安附近に於ても蠢動の徴候を認めず、此方面の戰果として判明せるもの敵遺棄死體二千百餘名を數ふ

南昌方面

【漢口十一日發同盟】中支軍報道部長談

――わが攻略基点より約一百粁離れた贛東北方角において時計の如くわが皇の正確且つ迅速なる包圍機動の實施により九日夜において先づわが皇の前衛に突げられた敵は九箇師に達し、尚わが包圍圈内に逃げ込んだ敵の中の數箇師の如き十數箇師の運命も全く時間の問題である、既に今次わが皇の行動は敵を攪らせてわれに引きつけ、特に主力を随意東北方の行動に自由なる山地帶に誘致して爾後の機動を失はしめ、この間主力をもつて漢水附近安陸東北地區に穴を穿ち、機到るや敵の如く敵主戰地帶を突破し侯馬の如く南陽西北に進撃し、もつて先づ敵をその根據地より完全に遮斷し、次いでこれを包圍し、更に四圍より包圍殲滅戰に轉じ敵の殲滅を期するの

至妙なる作戰

にほかのである、敵は勿論これんとする抗戰力を極度に發揮するため四月攻勢を内外に宣傳し、戰勢を誤つて殲滅國の機動を圖示、一面國内的にも既に命脈に瀕せんとする戰局を糊塗せんとすることは敵が總力戰を以て第一線と銃後とを通じ敵は我皇の攻擊に依り多大の損害を受け、南昌西方地區に侵入せる敵部隊（兵力不明）は目下敵方面より前進せる我軍に包圍殲滅せられたり、この方面四月二十六日以來五月十日に至る戰果判明せるもの敵遺棄死體二千九百二十（内將校五十二名）にして鹵獲兵器、馬匹多數を數ふ

南新、靖安方面

臺新方面に於ては南昌攻略戰の敗殘の敵並に長沙方面より新に增援せる敵が同方面に集結し新春回の意圖を示しありしが、我軍は兵力を增強して四月二日總攻を加へたり、其後敵は依然として增援を續行せるも我軍の爲に撃破せられ、靖安附近に於ても蠢動の徴候を認めず、此方面の戰果として判明せるもの敵遺棄死體二千百餘名を數ふ

南昌方面

四月二十日頃我が第一線の眼を逃れて南昌南方地區に侵入せる敵殘兵の主力は我軍の殲滅する所となり終局において撤退を試みたり、其後敵は依然として增援を續行せるも我軍の爲に撃破せられ、靖安附近に於ても蠢動の徴候を認めず、此方面の戰果として判明せるもの敵遺棄死體二千百餘名を數ふ

江南最近の戰況

二十九日以來逐次我が陣地に突進し、白袋鎭附近の敵は若干部隊を我が後方に迂回せしめたが、我部隊は依然これを我が陣地に深入りせしめて此間突破及び逆包圍の態勢を整へ、五月二、三兩日一擧に殲滅を加へ、更に潰走する殘敵を追撃して山地内に包圍しこれに大打撃を與へたり、其後敵殘兵は東西兩道に分れ東道は大體殲滅せられ西道は殘敵數千を以て抵抗を續けつゝあるも、我軍は既に包圍圈を縮小して殲滅戰に移つてゐる、十日早曉東北地區において九個師を擁する敵の古賀、近廣、山田、南部、三浦、角田、川原、林各部隊及び大挺山部の一部を含む敵精鋭部隊の後、九日夜襲破の後、九日夜襲破の後、九日夜襲破

反日の夢から醒め 皇軍進撃を絶讃

爪哇在住の華僑の動靜

【廣東十二日發同盟】十數年來華僑としてジヤバ各地に活躍してゐた廣東市出身の○○氏（特に名を秘す）は數日前當地に歸還したが十二日伊紡の記者にジヤバ現地方面の華僑の動靜につき左の如く語つた

ジヨグジヤ、バカロンカン、バンドン、ソロー地方（中部及び西部ジヤバ）の華僑は壓制勿論警時は支那側のデマに惑はされ日本人に非常な反感を懷き日本商品不買とまつた調い機度を示してゐたが、その後頻次支那側のデマが飛り日本に對する有利な戰況を知るやうになつて來ると自己等の非を悟つてか最近は元通り取引を續けてゐる、賦金運動等も開戰當初は盛んに行はれてゐたが當局注意喚起の永續性に見切りを付けたため賦金も賦金の名の募集狀況行はるも一切跡を斷つてしまつた、マグラン地方（中部）には新客はババ（ジヤバ生れ）が多く本國に對する愛國心なども強い爲に日本人と極めて圓滿で時々會合をなすなど非常に親密に交際して居りクドス地方などは土人が支那人より日本人に好意を持つてゐるので最初から日本の開利を信じて居り日貨排斥運動などは少しも見られず全般的に見て在爪蘭の整明以來華僑の間にはこれに共鳴するものが多く、中には新政權との提手を希望してゐるものすらある、華僑の間には地圖に日本軍進擊狀態を記入し日本の快勝に喝采を叫ぶものもある有樣である

多産系の鶏を臺北州下に配布

過去十年の間に內地だけで約一億五千万円の巨額を投げ昨年迄四個年に亘つて世界一のレコードを指續して來た無敵鶏國日本の名にふさはしく台北州に於ても昨年から大々的に養鶏の改良を圖ることになり之が為め先づ多産系統の鶏を入れて產卵の平均率を引上げることとなり此度產業課省より購入の昨年並に一昨年に於て世界記錄をとつた「纐」の兄弟四十五羽が十一日州廳當局に到着した、同廳當場で分配して州下へ配付し根本的改良を圖る事となつた、因に購入を養鶏組合聯合會は白色レグホーン種と褐斑プリマスロック種との事である

我が誠意に感激 五百の匪團歸順

廣東珠江の警備に協力

【廣東十一日發同盟】最近の手に依つて完全に撤退し殘された珠江右岸地區デルタ地帶にはその總延長なる水路と地形を利して帥出沒し住民の金品その他を掠奪し或は日本軍の後方攪亂を策するなど傍若無人の暴動を續けてゐたが去る二月當時（廣東陷落前約十日）我が吉田部隊が占領當時頑強に抗日態度を續けてゐた半個團を殲滅的に撃破して以來全く鳴りを潜めてゐたその後の殘匪二百餘名は吉田部隊長に感激し十二日第十二方面の武藤參謀を行つたがその後の殘匪二百餘名は吉田部隊長に感激し下を挙げて皇軍と行付け我軍に歸順を申出でたので、吉田部隊長は直ちにこれを容れ機銃二十、小銃四百五十を押收し全員を收容した

陸戰隊が上陸して 犯人捜査を開始す

厦門根據地部隊長の聲明

【廈門十二日發本社支局特電】廈門根據地部隊長吉明昨十一日午前十時半廈門市商會講堂に於いて抗日テロ團の掃蕩に關し左の如く聲明した

一、今次の掃蕩は抗日テロ團の根據地を覆滅し以來屢次に亘る暴戾なる抗日行爲を徹底的に膺懲するにあり、從つて

家庭と婦人

乘車通學生の守るべき諸注意

各家庭でも熟知して下さい

★……臺北州敎護聯盟

近來中等學校の增加と滯絡軌道の整備、官軍、自動車の發達、自轉車の普及等に依つて寄宿生、下宿生の數が漸減して通學生が著增して參つてゐます一般に通學生は寄宿生や近距離通學生に比べ、出席率、風紀、衛生等の點が多いことは想される所で、事實も又明かにこれに一致してゐます、そこで之等の事故を成るべく少くするために、台北州敎護聯盟では次のやうな乘車通學生のぜひ、注意をパンフレットに印刷して通學生に渡れたく發行せしめた通學生を持つ親も熟知して戴きたいとの事です

（一）一般

一、若しも發車間際がかなつたら通學が何に不便なるかに想を致して、交通機關の有難味を感謝しつつ乘車してもらひたい

二、係員の指示に從ひ、乘客の守るべき規則を厳守して、事故の防止に力めてもらひたい、若し係員の處分が事故を發見した時は、直に係員に通告して大騒ぎなを起せられたい

三、常に老幼病者を勞り、長者を敬ひ、一般大衆に對する心持を以て行動を愼んでもらひたい

四、言語を丁寧にし、服裝態度を嚴正にし、假初にも紛擾を乘じ他人に迷惑を及ぼし不快の念を與へるやうなことがあつてはならぬ

學友が追つて風紀を紊すものがあつたら、誡告を以て忠告し之を改めさうにしてもらひたい

五、乘車通學生は、乘車のため時間を無駄に費すことが多いから常に時間の利用を圖り、待合室では勿論、列車中でも勉強に勉强するの覺悟を養ふことが望ましい

（二）乘車券

六、定期乘車券を購入せんとする場合は、數日前に申込まれるがよい

七、乘車券は細心にて紛失に結び付け紛失しないやうにされたい、又乘車券人の中に學生、名刺等を購入して學員の紛札に不便を來たさないやうに注意されたい

（三）改札口

八、發車までに間があるといふので、構內の圖書や、停車場附近や、通學途上で無駄な時間を費し發車間際に急いで改札口に驅け込むものがあるが、これは學用品を遺失したり、他の乘客を押し退けたり、自分が怪我をしたりすることにもなるから、相當の餘裕をつけて改札口に集り、混雜しないやうに入場して欲しい

九、定められた改札口以外から出入することの宜敷ないことは勿論だが、改札口の場合でも手荷に乘車券を提示して、係員に不快な念を與へる擧動があつてはならぬ

（四）乘車

一〇、列車には男女席を避け、男生は前部に、女生は後半部に乘車せられたい、一つの客車だけを滿員する擧動等でもこの心得であらたい

一一、乘車は、乘客の下車が終るのを待つて、順序よく乘車に行ふべきは勿論であるが、老幼病者は成るべく先に乘車させ、重い荷物の所持者に對しては之を援けて乘降車を容易にすることが望ましい、決して他の乘客を押し退けたり、殺倒したりしてはいけない

一二、乘車の便利のために上級車の入口から乘車に移つて行くものがある、これは他の乘客の迷惑になるし、きまりにも反することになるから愼んで欲しい

一三、發車、飛降りは危險を伴ふものであるから絶對にやらぬやうにありたい

（五）坐席

一四、乘客が混雜手合に立つことや、車掌、郵便業等に入ることは業務の妨害になるから出來せぬやうにしたい

一五、盛の候とか、人込の時とか特に病者に對しては之を緊急やう時とか、車內に空席のあるに拘はらず下車に都合がよいとか等のために、デッキや入口の附近に居るものがあるこれは他の乘客の乘降に支障を及ぼすばかりでなく、再た危險で列車事故の原因となる場合があるから必ず客室內に進入やうにしたい

（六）車內

一六、列車內では特に左の事項に注意して欲しい

1、放歌、高吟、其他喧噪に亘らぬやう

2、器物並に壁に揭書をしたりこれを傷けたりせぬやう

3、坐席の汚穢にて汚し故意に損傷せぬやう

4、痰唾は痰壺以外には吐かぬやう

5、室內には不潔物を散らぬやう若し途中におはからぬ時は取纏めて坐席の下に置くやう

6、物品は窓から外へ投げ棄てないやうに、紙屑一片が間々匪徒をすることがあるから

7、室內で疾走したり、喧嘩したりせぬやう

8、洗面所の水を濫費せぬやう

9、老幼病者には席を譲つて上げるやう

10、携帶品は身につけて下車の際に忘れぬやう

11、其他他人に迷惑をかけ、不快を與へ生徒の體面を汚さぬやう

赤ちやんとおんぶ

發育にさはりはないか

よく赤ちやんをおんぶしても發育に差支ないかと云ふことを聞きますが生後まだ日のたたない赤ちやんや病弱な赤ちやんや體質の弱い赤ちやんや、背負ひ方や抱き方を誤つてお乳をかませたり、背柱を彎曲させたり、また足を弱くしまふために發育を阻害することはいけません。

魯西亞船

(22)

土師清二作
坪内節太郎畫

釘

(六)

お幸の心を探るやうな眼もとになつた小せんが

「わたくし眞面目でございます際の花のやうに、三日見ぬ間に……お変りになりました。わたくし……さう思ひます」

「ア」

不審さうに云つたお幸は、見る見る顔を憐てた顔いろに変つた。わが心の秘密を覗かれた心地がしたのだ。

（三日見ぬ間に変つたといふ。その意味は、何を差してゐるのであらう……？）

小せんの眼鏡が怪しくおもはれてお幸は、眼を外した。脚がドキドキするのであつた。

醜い姿を二階隠しする為やうに廻の樹々が茂つて、枝を垂れてゐる……。

廻りには草木が成長する時なので、書院が薄暗さを増すばかりだ。

「差出がましい、申上げ様ですが、さう御思ひなさいませうけど……」

小せんは真面目な態度である。迷んで何か云はうとした時、勝手口で、人の訪れがしたから小せんもお幸も、思はず聞き耳立てた。

「今日は、こちらは船大工の、土方近作様さんのお宅でございますか」

「はい。どちら様でせうか？」

応答をしたのは女中のお松の声であつた。

「あゝしかね。急用を申上げても仕様がありませんが……お留さん女中さんかね」

「はい、さうですよ」

「近作様さんは、御用で造船所へ出てゐられるだらうが、御帰りもいい。家の人にお目にかかりたい。怪しい者ちやありません。コレでネ」

それきり少時シーンとなつたかとおもふと、やがてこちらへ来るお松の聲音がした。

襖を開けたお松は、面色を変へてゐた。ひどく怖ぢ気づいてゐる顔色である。お幸は不安さうに

「誰なの？」

「はい……コレこれと申しまして十手を……岡ッ引でございます」

「さう、ぢゃ御用を聞いてゐらツしやる親方衆でせう。生憎、男ヲ気がありません。御用がおありでしたら出直して来て下さいつて云つておくれ」

「あツしは、その留助をぢき見たことがございません。立派な御職人ださうで……」

と云ひつつ玄関は、板間に坐つてゐるお幸に近づいた。

海外映畫短信

△サミュエル・ゴールドウイン・プロでは六月に映画界に一大センセーションを捲き起すべく「サポタージュ」のスタッフ陣容に着手した、これはアメリカを包囲する各国のスパイ網にキヤメラの目を向けて作る異色映画で、これに次いで「週刊密電」を製作するが此等製作は目下としてゐた間プロが此の種の政治的色彩の強い作品に力を入れはじめた事は興味深いものがある

△ワーナーの新作「トン・ファンシエリダン・オリヴイア・デ・ハヴイランド、ブリシラ・レーン、ライラ・リイ、マーガレット・リンゼイ等の他更に著名な

「あゝ」

不審さうに云つたお幸は、見る見る顔を憐てた顔いろに変つた。わが心の秘密を覗かれた心地がしたのだ。

（三日見ぬ間に変つたといふ。その意味は、何を差してゐるのであらう……？）

小せんの眼鏡が怪しくおもはれてお幸は、眼を外した。脚がドキドキするのであつた。

醜い姿を二階隠しする為やうに廻の樹々が茂つて、枝を垂れてゐる……。

廻りには草木が成長する時なので、書院が薄暗さを増すばかりだ。

「差出がましい、申上げ様ですが、さう御思ひなさいませうけど……」

小せんは真面目な態度である。迷んで何か云はうとした時、勝手口で、人の訪れがしたから小せんもお幸も、思はず聞き耳立てた。

「今日は、こちらは船大工の、土方近作様さんのお宅でございますか」

「はい。どちら様でせうか？」

応答をしたのは女中のお松の声であつた。

「あゝしかね。急用を申上げても仕様がありませんが……お留さん女中さんかね」

「はい、さうですよ」

「近作様さんは、御用で造船所へ出てゐられるだらうが、御帰りもいい。家の人にお目にかかりたい。怪しい者ちやありません。コレでネ」

それきり少時シーンとなつたかとおもふと、やがてこちらへ来るお松の聲音がした。

襖を開けたお松は、面色を変へてゐた。ひどく怖ぢ気づいてゐる顔色である。お幸は不安さうに

「誰なの？」

「はい……コレこれと申しまして十手を……岡ッ引でございます」

「さう、ぢゃ御用を聞いてゐらツしやる親方衆でせう。生憎、男ヲ気がありません。御用がおありでしたら出直して来て下さいつて云つておくれ」

「あツしは、その留助をぢき見たことがございません。立派な御職人ださうで……」

と云ひつつ玄関は、板間に坐つてゐるお幸に近づいた。

海外映畫短信

△サミュエル・ゴールドウイン・プロでは六月に映画界に一大センセーションを捲き起すべく「サポタージュ」のスタッフ陣容に着手した、これはアメリカを包囲する各国のスパイ網にキヤメラの目を向けて作る異色映画で、これに次いで「週刊密電」を製作するが此等製作は目下としてゐた間プロが此の種の政治的色彩の強い作品に力を入れはじめた事は興味深いものがある

△ワーナーの新作「トン・ファンシエリダン・オリヴイア・デ・ハヴイランド、ブリシラ・レーン、ライラ・リイ、マーガレット・リンゼイ等の他更に著名な

新映畫

兩國梶之助

作……鈴木傳次郎
術……小村雪岱
演出……冬島泰三
撮影……片岡
配役
白玉喜五郎……川浪良太郎
深川屋重吉……高松福之助
女房おまさ……岡田　和子
娘　お琴……伏見　信子
佐久間象山……赤星　靖郎
大日方四郎兵衛……大川　大郎
横川　大助……大東　元
千代川　山路　義人
おはま　吉……伏見　亘江
久松二郎江……新妻　四郎
門……尾上多見太郎
白玉喜五郎……高松福之助
伊勢の海五太夫……岡田　和子
猪王山（大関）……南　光明
碇……結城　一郎
米大……原田　甲子
鹿さん……石原須磨男
小さん……最上　米子
花……八見　芳子
菊……白河帝七子
おあひで……花岡　菊子
梶機……島秋四朱秋

本所回向院の本場所、祭も今日は千秋楽、勝ちッ放しの強豪人気絶頂にある二ツ目の梶之助が、今回の友衛は毎夜新作物を提供し絶讃の的となつてゐる、十二日夜はお名残としてさきにラチネで催演して満場アンコールに応へた「兩國梶之助」を前景に後篇「兩國山崇敬」で毎夜連続の十八番物を演ずるさうだから謎花団の好きな人は聞き逃せないであらう、今晩の一行の顔ぶれは勿論の演目は第二部「兩國梶之助」第三部「兩國山崇敬」

今週の映畫

沙羅乙女

十三日から
大世界館

原作は第十六次、演出は佐藤武、撮影は三村明、千葉早智子、志川春彦、伊東英男、北澤彪、三原京子、丸山定夫など出演

南島ノ嶺門ヲ

ソラタカク　ヒルガヘシマシタ。ワガグンノ　イキホヒヲ　オソレタ　テキハ、チリヂリニ　ナツテ　ニゲダシマシタ。

▲ワガ　クニカラ　イランヘ　ソラノ　オツカヒヲシタ　ソヨカゼガウハ、十五日ノ　アサ　イランノ　ミヤコ　テヘランヲ　シユツパツシ　トウキャウヘ　カヘル　コトニ　ナリマシタ　ソヨカゼガウガ　タイホクニ　チヤクリクスル　ヒハ　二十六日ノ　ヒルスギデス。

▲アメリカノ　ニユーヨークデ　アツタ　オハナシデス。コノマヘ　デンショバトノ　セナカニ　カハイラシイカナリヤノ　ヒナヲ　イレタ　カゴヲ　ムスビツケ、二十マイルモハナレタ　ニユージャーシーノ　マチマデ　バセマシタカナリヤノ　ヒナハ　トホクヘ　キタノデ、メヲ　パチクリ　サセナガラ　オドロイテ　キタサウデス。

▲ワガ　秋富ブタイハ　八日ノ　ユフガタ、海南島ノ　嶺門ヲ　セメオトシ、ヒノマルノ　ハタヲ　ソラタカク　ヒルガヘシマシタ。ワガグンノ　イキホヒヲ　オソレタ　テキハ、チリヂリニ　ナツテ　ニゲダシマシタ。

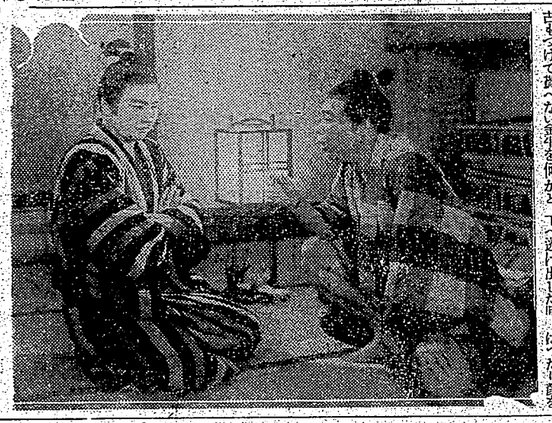
▲ワガ　クニカラ　イランヘ　ソラノ　オツカヒヲシタ　ソヨカゼガウハ、十五日ノ　アサ　イランノ　ミヤコ　テヘランヲ　シユツパツシ　トウキャウヘ　カヘル　コトニ　ナリマシタ　ソヨカゼガウガ　タイホクニ　チヤクリクスル　ヒハ　二十六日ノ　ヒルスギデス。

▲アメリカノ　ニユーヨークデ　アツタ　オハナシデス。コノマヘ　デンショバトノ　セナカニ　カハイラシイカナリヤノ　ヒナヲ　イレタ　カゴヲ　ムスビツケ、二十マイルモハナレタ　ニユージャーシーノ　マチマデ　バセマシタカナリヤノ　ヒナハ　トホクヘ　キタノデ、メヲ　パチクリ　サセナガラ　オドロイテ　キタサウデス。

▲デルタガウハ　コンドノ　センサウガ　ハジマルト　スグニ、ヘイタイサンヲ　イツシヨニ　タイホクカラ　シユツセイシテ、ナンドモ　リツパナ　テガラヲ　タテテ、ブタイチヤウカラ　ゴハウビヲ　イタダイタ　コトモアリマシタ。ヘイタイサンガタ　カラモ　タイヘン　カハイガラレテ　キマシタガ、コノマヘノ　海南島ノ　イクサデクビニ　テキノ　タマヲ　ウケテ　メイヨノ　センシヲトゲマシタ。

▲アメリカノ　ニユーヨークデ　アツタ　オハナシデス。コノマヘ　デンショバトノ　セナカニ　カハイラシイカナリヤノ　ヒナヲ　イレタ　カゴヲ　ムスビツケ、二十マイルモハナレタ　ニユージャーシーノ　マチマデ　バセマシタカナリヤノ　ヒナハ　トホクヘ　キタノデ、メヲ　パチクリ　サセナガラ　オドロイテ　キタサウデス。

カナ文字ニュース



大崎八段講評

〈小泉若の五六歩飛車に對かす〉

四女優が出演という豪華キャストになると

と同時に徳を得ようとした一最の加はるのを狙つたのである

▲寄贈丸臨　一期遅滞

敗退棋戰

(五十)

(小菜民、一回戰、一回目)

土師清二作
坪内節太郎畫

敗退棋戰

(五十)

(小菜民、一回戰、一回目)

平手七段〈小泉兼吉
先七段▲溝呂木光治

▲溝呂木氏（持駒）飛角歩歩歩

一	二	三	四	五	六	七	八	九	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	一
	王								二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
							桂		四
		歩				歩			五
									六
			金		金				七
				歩					八
歩	歩	歩	玉	歩	歩	歩	歩	歩	九
香	桂	銀	金	王	銀	桂	桂	香	一

一二三四五六七八九

△五・六飛成　△六・六歩　△八・四歩　△三・七と　▲四・二金　△四・三金　▲七・二飛　△八・五歩　△同・玉

▲溝呂木君の六六歩は當然で云ふまでもなく二手後と雖に突かしてゐるのである

△小泉君の八四歩は當然で自玉が孤れても大した損は加はらない積極ぶりと云はれた該當然である

▲溝呂木君の四二金は銀を得ると同時に歩生じるの常用力が必要であると云はれてゐる

△小泉君の八五歩は當然で敵玉に攻かすと同時に自玉の守りをも攻めに利かさうとしてゐる

▲溝呂木君の同玉は七七玉の順も考へたが角ちに歩のないので模様によつては入玉の恐れをも考へてゐる次に七二飛と敵玉に迫かすと同時に自玉の銀をも攻め利かさうとする意味で要する敵玉を逃さうとする際に碧しい波状がある

△小泉君の四二金は最初に敵も強い攻めを持つてゐないのでゆつくり持駒を攻めに利かせば好合は取れると云つた局面である

▲溝呂木君の六六歩は當然で云ふまでもなく二手後と雖に突かしてゐるのである

△小泉君の八四歩は當然で自玉が孤れても大した損は加はらない積極ぶりと云はれた該當然である

▲溝呂木君の四二金は銀を得ると同時に敵玉に迫かすと同時に自玉の守りをも攻めに利かさうとしてゐる

▲溝呂木君の同玉は七七玉の順も考へたが角ちに歩のないので模様によつては入玉の恐れをも考へてゐる次に七二飛と敵玉に迫かすと同時に自玉の銀をも攻め利かさうとする意味で要する敵玉を逃さうとする際に碧しい波状がある

△小泉君の四二金は最初に敵も強い攻めを持つてゐないのでゆつくり持駒を攻めに利かせば好合は取れると云つた局面である

合せたのは勿論着手次となつてゐるお手だ。

惜しさに金半話しかけ様としたが、何故か着手次は逃げる様に外へ飛び出して行つた

〝相撲取りを天に持つては

江戸や長崎、国々へ……

新興流しが開けて来る引張、柳にもたれ琴次郎しさにまらなく泣きくづれてゐる

後追つて来た梅ケ枝金半、声をかけようとした——が喉まで出た言葉をグッと飲み込んだ

金半の出世のため、何もかもあきらめねばならない——琴次は情慾と泣き別れて去つて行く

見送る金半、断腸の思ひでグッと後を振り向いて終つた。この来の人情力士、兩國梶之助、今は梅ケ枝の金半後から後から涙が流れ出る顔を、扇のまだたく大空へ向けサッと両手を高く差け叫ぶふのだつた

「さう、これは天下第一流になるんだ」

「吃度なつて見せるぞ！」

木村友衛の四日目讀物

愈よ今晩限り

木村友衛の四日目讀物

愈よ今晩限り

世日満員と好評を博けてゐる大世界館の友衛八人衆は、いよ〳〵十二日限りだが今回の友衛は毎夜新作物を提供し絶讃の的となつてゐる、十二日夜はお名残としてさきにラチネで催演して満場アンコールに応へた「兩國梶之助」を前景に後篇「兩國山崇敬」で毎夜連続の十八番物を演ずるさうだから謎花団の好きな人は聞き逃せないであらう、今晩の一行の顔ぶれは勿論の演目は第二部「兩國梶之助」第三部「兩國山崇敬」

商況（十二日）

臺灣正米市場前場

▲期遅滞
臺部売買三三石
中場
▲期遅滞
臺部売買不申

臺灣正市公定相場

▲期遅滞
臺部売買三三石　三三圓　三三圓
三三圓　三三圓　三三圓
三三圓　三三圓　三三圓
三三圓

（第二種郵便物認可）（昭和十一年一月廿五日第三種郵便物認可）昭和十四年五月九日第三種郵便物認可）　臺灣日日新報　第一萬四千六十四號　（一）

臺灣日日新報

本日夕刊廿二頁共

賣木々佐　人行發發編

地番弐拾壹丁目町愛市北臺　所行發

社報新日日臺　所行發

定價　本紙一ヶ月前金拾五錢　圓月金六十錢　圓年金六圓五拾錢（日本內地及外國郵送料共前金）

廣告料　普通一行一ヶ月金五拾錢　特別一行同金壹圓　圓年金拾圓

振替口座臺北二〇番　電話日日臺北二八〇〇番　電話編輯二一〇五番

戰爭新聞　官廳　民間

六大都市を近代化し 明朗、華北を建設

公路、水利も劃期的に充實

【北京十二日發同盟】臨時政府建設總處では政府成立以來一年の準備期間を經て愈よ積極的建設期に入つたので本年度豫算二千五百萬圓を計上し公路、水利、都市計畫の三大部門に亙つて劃期的充實を圖り明朗華北建設を目差して躍進することとなつた

公路計畫

總額二千二百五十萬圓をもつて北京を中心として通州、天津、石家莊、南口、古北口に至る一大幹線道路を完成、一方には全北支に於ける治安道路の整備に資せんとするもので既に中間區間に出でゝ風中期線を竣工し通車に至つてゐるが

水利計畫

總額七百五十萬圓を投じ天津、通州間の北運河、天津、滄州間の南運河及び永定河の改修工事をなして各地方との水運を便ならしめると共に大增進の資源をなし貿易港たる天津を中心として近代的都市計畫を實施する

都市計畫

北京、天津、濟南、徐州、太原、石家莊の六大都市に對して三百七十五萬圓をもつて

敵屍二萬四千餘

中支軍發表の戰果

【南京十二日發同盟】中支軍發表　三月上旬より四月下旬に亙る中支方面に於ける我軍の戰果左の如し

一、九江附近より揚子江南北地區　三月二十二日より四月二十日の間の我軍の損害は戰死一萬二千百十二、戰傷四萬一千百二十一、行方不明一千百十一、敵の遺棄死體二萬四千餘、捕虜一千百十一、鹵獲品は山砲十門、野砲十門、迫擊砲十門、重機關銃百二十一、輕機關銃二百十一、小銃千百十一、其他彈藥多數

二、南昌附近　三月十一日より四月十日の間の我損害は戰死一千百十一、戰傷三千百十一、行方不明百十一、敵の遺棄死體一萬二千百十一、鹵獲品は野砲十門、迫擊砲十門、重機關銃二十一、輕機關銃百十一、小銃千百十一、其他彈藥多數

三、小銃千六十五、擲彈筒十六、其他彈藥多數

四、浦口附近　三月十一日より四月十日の間の我損害は戰死一千百十一、戰傷三千百十一、行方不明百十一、敵の遺棄死體一萬二千百十一、鹵獲品は野砲十門、迫擊砲十門、重機關銃二十一、輕機關銃百十一、小銃千百十一、其他彈藥多數

五、蕪湖附近　三月十一日より四月十日の間の我損害は戰死一千百十一、戰傷三千百十一、行方不明百十一、敵の遺棄死體一萬二千百十一、鹵獲品は野砲十門、迫擊砲十門、重機關銃二十一、輕機關銃百十一、小銃千百十一、其他彈藥多數

六、南京附近　三月十一日より四月十日の間の我損害は戰死一千百十一、戰傷三千百十一、行方不明百十一、敵の遺棄死體一萬二千百十一、鹵獲品は野砲十門、迫擊砲十門、重機關銃二十一、輕機關銃百十一、小銃千百十一、其他彈藥多數

敗殘兵を急追

十二日未明を期して

【合同發十二日發同盟】作戰開始後僅か四日、敵くづれ敗走さる十一日未明、黎明を期して總攻撃を開始した蘇北方山地に遁入した敗殘の掃蕩を開始した國ら加納、石垣、軍部隊等は國府村、河口村、河北村、蘇州の各地点から總攻撃を開始、或は殲滅の袋谷を渡つて西北の山地に分け入り敗殘を掃り出滅しつゝある、由來蘇蘆地區は

敗將、湯恩伯

包圍圈内を逃げ迷ふ

【東京十二日發同盟】陸軍では今回國軍總司令中の一部を改正することになり十二日の閣議で決定を見たがその改正要旨は左の通り

一、中將より一部の軍隊を編制せしめる爲め陸軍總司令中第二十二條の陸軍部隊編制表に關する部分を改正し來た英佛兩租界當局の反省を促すとともに塲合によつては右課金の正金銀行供

陸軍給與令

一部改正さる

【東京十二日發同盟】陸軍では今回國軍總司令中の一部を改正することになり十二日の閣議で決定を見たがその改正要旨は左の通り

一、中將より一部の軍隊を編制せしめる爲め陸軍總司令中第二十二條の陸軍部隊編制表に關する部分を改正し來た英佛兩租界當局の反省を促すとともに塲合によつては右課金の正金銀行供

下の各部隊のため總攻北方二十餘附近において捕虜され四圍部は殲滅的打擊を受けて潰乱し殲滅旧は僅かに身を以て東方に脱走、その際各諜報員等を教唆が如の俘虜となつた、我が軍は更に東北方に急進して九日夜より十日未明に亙り殲滅北方五十餘里地、湖河鎭の線で掃蕩殲滅を行つたが湯恩伯は更に西方に遁入盆上我が包圍網に入つた

敗將、湯恩伯

包圍圈内を逃げ迷ふ

【漢口十一日發本社特電】十日現在に於ける中支戰線の概況は左の如し

一、九江附近より揚子江南北地區　三月二十二日より四月二十日の間の我軍の損害は戰死一萬二千百十二、戰傷三千百十一、行方不明百十一、敵の遺棄死體一萬二千百十一、鹵獲品は野砲十門、迫擊砲十門、重機關銃二十一、輕機關銃百十一、小銃千百十一、其他彈藥多數

二、南昌附近　三月十一日より四月十日の間の我損害は戰死一千百十一、戰傷三千百十一、行方不明百十一、敵の遺棄死體一萬二千百十一、鹵獲品は野砲十門、迫擊砲十門、重機關銃二十一、輕機關銃百十一、小銃千百十一、其他彈藥多數

三、小銃千六十五、擲彈筒十六、其他彈藥多數

四、浦口附近　三月十一日より四月十日の間の我損害は戰死一千百十一、戰傷三千百十一、行方不明百十一、敵の遺棄死體一萬二千百十一、鹵獲品は野砲十門、迫擊砲十門、重機關銃二十一、輕機關銃百十一、小銃千百十一、其他彈藥多數

五、蕪湖附近　三月十一日より四月十日の間の我損害は戰死一千百十一、戰傷三千百十一、行方不明百十一、敵の遺棄死體一萬二千百十一、鹵獲品は野砲十門、迫擊砲十門、重機關銃二十一、輕機關銃百十一、小銃千百十一、其他彈藥多數

六、南京附近　三月十一日より四月十日の間の我損害は戰死一千百十一、戰傷三千百十一、行方不明百十一、敵の遺棄死體一萬二千百十一、鹵獲品は野砲十門、迫擊砲十門、重機關銃二十一、輕機關銃百十一、小銃千百十一、其他彈藥多數

蔣政府成都へ遁竄

將領の反中央態度激化

（下）

昨年一月二十日、當時四川省主席にして四川派の巨頭劉湘が突如漢口の國際病院で急逝したことは未だ記憶に新しい

右に關し國府當局者は病氣による急死なりと說明したが、彼の死因が、當時國民政府の重要人計畫に關し「蔣人滅川」を叫ぶ四川軍閥を代表して飽くまでも反對したことより、國際間諜の手に葬られたものなどことは何人も認めるところであつた、果せる哉彼の死後四川軍閥と蔣介石の中央軍との對立は愈よ深刻となり、更に四川軍閥内部に於ても劉文輝、鄧錫侯等は蔣介石の方針に三省せば次の如きものである

一、國府側は劉湘の死を契機として四川軍閥を四川省内に於ける中央軍の勢力扶植の好機と考へ、劉湘の後任主席に劉文輝を任命したが、現狀を傳ふるに

國民職能申告令
けふ施行規則公布さる
内容說明（殖産局發表）……（下）

四、申告の種類

イ、一般申告（翌申告者となつた場合の申告）

翌申告者となつた場合に前記の申告義務者に付て必要と認めた場合の申告である。三、異動申告（申告した事項に異動を生じた場合の申告）

一般申告をした後、申告事項の（一）又は（3）乃至（8）及（10）又は（11）に異動があつた場合の申告である。臨時申告

翌

『女誠扇綺譚』に就て

（二）

藤井駿一

二人は更に歩みを續けて、或る大きな屋敷を見出す。しかもその建物に奇異を感じて私しは世外民を誘つてこの建物に導入らうとする。そこで世外民が足早くになる。彼處に入口を尋ねる。そしてこの建物かも知といふ台湾第一の富豪の邸であつたことを知る。その門を探あてて二人はつかつかと屋を踏み入れる。すると二邊から女の声でしかも言葉ではあまり聞く使はれてゐない、「旦那」言葉で「どうしたの？、なぜもつと早くいらつしやらない。……」と云ふのが聞える。そこで二人は人があるのだなと云ふことで、何の氣なしに引返す。するとその途端に先刻の老婆があるのに會ふ。そこで世外民が人が住んでゐる樣だから引返して來たと云ふと、老婆は怒りさうな顏をして「馬鹿方がたは死體の声を聞いたのです」と言ふところで第二章は終はる。

第三章においてはこの老婆によつて屋屋にまつわる怪奇な噂が物語られる。ここはその昔沈と云ふ富豪の邸である。沈は大きな規模の財産を十數も持つた大成人で、數人の妻な

南風の歌 (117)

加藤武雄作
富田千秋畫

幸子は銘代に抉り殺されて佛前を立つた。その時、一人の女が、今自分がしたやうに、聲を挙して合掌してゐる姿が、幸子の眼についた。

「私のお部屋へいらつしやいな」

「そう」

打つて変つた銘代のやさしさに幸子はむしろ戸惑さへ感じながら、

「でも、私、ここにゐちやいけないでせうか？」

「どうして？」

「伯母様に叱られやしませんか知ら？」

「大丈夫よ、おかあさんだつて、もうすつかり喜んでいらつしやるだらうと、倹悟していらつしやるのよ。今、鏡れて、それに又銘銘がひとなつて、あちらでやすんでいらつしやるけれど——」

「さう、ぢや、私、今晩お通夜させて頂けるでせうか？」

「そう、どうぞ、お父様もおよろこびになるわ」

そこへ、冊が女中の肩にすがるやうにして歩いて来た。

「お母さん、やすんでいらしつたんぢやないの？——幸子さんがいらしつたのよ」

「まあ、幸子さん」

「伯母様、すみませんでした。伯父様、私が部で御歴いましたばつかり来てお呉れだつたねえ——まあ、ぢやお前、矢張幸子と一緒だつたのかあ？」

「ええ」

幸子には何のことやらわからなかつた。

「幸子と一緒に来たのぢや無いのかえ？」

「何の事でせう、伯母様」

「お前、阿世さんと一緒にくらしてゐるのぢや無いのかえ？」

「阿世さま？」

「……」

「それぢや、阿世だつたのか」

「……」

「幸子も来て呉れたんですよ。新聞で知つたのだと云つてね。矢張此の寒空にたんだつて車でやけど、私、本當にびつくりしました何しろ二年近くの間、まるきり音沙汰無しで、死んだのだとばかり思つてゐた人が、いきなり訪ねて来たのだからねえ」

「ぢや、伯母様、私の阿世さんが——？」

幸子の声はわなないた。

「私、お前も一緒に来たのだと思つたんですけど——」

の一分隊を以て急遽して奉天に入り、既に軍地方面作戦行を反撃し、これより南進を続りて安東に向ひ、更に明治三十七年奉天

ペストの豫防

醫學博士　倉岡彦助

(三)

之を撲滅する事は細菌学上に於けるペスト根絶地の一たる南西欧の伝播に進出し此処を中心として周辺各港に蔓延し、殊に南米、他亜、他に伝播するに至りたるものにして、今尚ほ之が撲滅に努力しつゝあるの現状なるべからず（大正九年二月醫學會雑誌「流行學總説」に於ける「ペスト」の流行學的研究、倉岡彦助著照）

この外ペスト病の根絶地としては、明治四十二年の冬より同四十三年一、二月の候に亘り満洲に於て勃発し、大流行を極めたる事、又明治三十七年、三十八年の候に亘り、数日間に約五万人を斃したる伝播の記録、又たまさるべからず（大正九年二月醫學會雑誌に於ける「ペスト」の流行學的研究、倉岡彦助著照）

因に曰く、台湾に於けるペストの記録は遠く之を領台以前に遡する事本島のペスト本源地に非ざる事は学者のよる所なり而して如上世界各地に於けるペスト流行史上伝播経路の経路より考察する時は明治二十七年広東、香港に勃発を極めたる伝播の支那各港に波及したる事は本島に侵入したるものなること疑ひない

二、本島に於けるペスト流行の概況

本島に於てペストの流行を見るに至りたるは領台の翌年即ち明治二十九年以後の事に属す、即ち其年六月頃より流行の徴候を現はし、爾来年々歳々流行を反覆し、漸く防遏の功を奏するやの間々毒を逞ふし、大正六年を以て本病の消滅を見るに至りたり、抑もペスト醫事の本島伝播経路を分つては五次となすを得る

即ち第一次は明治二十九年厦門地方より同地に流行を起し、同年五月より同地に流行を起し、同年五月より安平街に侵入し同年九月台北に伝播し、北部に於ける流行の源泉となりたるもの、第二次は同年九月台北に入り、北部に於ける流行の源泉となりたるもの、第三次は明治三十年厦門より鹿港に侵入して中部流行の原因を作りたるもの、第四次は大正二年勃発せる南清地方より侵入し同七、八月の間に突如として台北市を始め各地に患者を発生し、患者十二名（内死亡十二名）を出したるもの、第五次は大正五年七月初旬以来淡水港に患者を発生し、爾来六年四月候迄に至るまで患者十二名（内死亡十二名）を出したるもの、その伝播経路は五次に亘り何れも厦門地方より淡水港に侵入したるもの、而して第一次より第四次迄は大正六年四月候迄に全く終熄したるも、第五次は同年七月初旬以来淡水港に侵入したるものにして、爾来今尚ほ之が撲滅に努力しつゝあり、従つて本病は未だ全く終熄したものなる事を得ず、されば本病は

物價引下實行に關し業者を招致して懇談
高雄經警の活躍

【高雄電話】高雄州經濟課、經濟保安兩係に於いては高雄市內物價の全般的引下げ並に暴利取締を期し十三日午前、午後の兩回に亘り警察官業許可ある百貨、貸座敷、カフエー、飲食店、行商人その他目出度業者、日用必需品商、和洋雜貨商、撃子商、果實商、市場組合加入者等を商工會館に招致これが實際に就き懇談の上暴利取締に關し嚴重注意する事となつたがこれと關聯して左の各項に依り暴利取締と低物價政策强行に關する事項を協議するやの讓歩に基づく

一、行商人に對する正札の掲示
二、正札の再檢討
三、高物價傾向の抑壓に對する消費大衆の協力擁護

右第三項に關しては市場、停車場、船舶場等十一ケ所に端書を備へつけて高く賣りつけた者を消費者側から通報して貰ふ事となつた

潮州郡下の道路品評會

【潮州電話】高雄州潮州郡の昭和十四年度道路改修費等に關し、過ぐる四月二十五日より五月一日迄の間郡下各庄を巡回實地に就き品評會を開催したが、十一日午後一時より潮州公學校に於て表彰式を擧行した

六十餘萬圓を投じ旗山、旗尾間に架橋
發展する旗山街

【高雄電話】昨年二月二十日附官報を以て發表された旗山、旗尾間の架橋工事は、其の後地元民の熱望に依り、當局に於ても之が實現に關し慎重考慮中であつたが、今回愈々實施する事となり、總工費六十餘萬圓を投じ、來る昭和十五年度より着工、同十六年度に竣工の豫定で、目下實地調査中であるが、旗山、旗尾間の交通は從來渡船に依つて居たが、之が架橋實現すれば、旗山街の發展は勿論、旗尾、旗山間の交通は勿論、旗尾、旗山間の交通は從來渡船に依つて居たが、之が架橋實現すれば、旗山街の發展

馬越藥學博士創製
橋谷農學博士監製

ビタミンB複合体(コンプレックス)とは

脚氣藥として有名なB₁以下……われ〳〵が健康を保つに必要なB₆までのB群を總稱して稱へるのであります。B₁だけなら米糠、B₂だけなら肝臟や牛乳中にも含まれますが、B₁B₂を始めB₆までのあらゆるB群を綜合的に然も濃厚に含有する天然給源はひとり麥酒酵母のみでエビオス錠がその純國產品を誇り得るのであります。

この錠劑が胃腸を強化する

興亞の大目的を遂げるには國民の一人々々が潑剌たる元氣を養ひ、與へられた業務に邁進しなくてはなりません。より健康へ……それが各方面に叫ばれるわけです。

健康——それは胃腸の機能が強靱であつてこそ始めて望み得るのです。

食慾、消化、排泄がいつも規則正しく確保される結果、激しい仕事にも耐へ得る底力が生れて來るのです。

胃と腸は健康の生命線

とも言ふべきでその機能を護るためにぜひ必要な榮養素がビタミンB複合體(コンプレックス)ですところがわれ〳〵は日常白米のやうな食物を主食する關係からこの貴重成分が甚だ不足し易くそのため慢性胃腸病に惱み或は脚氣を起して體位を低下しつゝある現狀なのですエビオス錠はビタミンB複合體(コンプレックス)を補給するのに一ばん効果的だとて賞用される麥酒酵母の製劑です。胃腸病や脚氣を防ぎ體位を向上するために毎食後この錠劑を連用することが米食國民の常識とさへなりつゝあります。

三〇〇錠…一圓六十錢
一〇〇〇錠…四圓八十錢
粉末もあり

エビオス錠

ニビス・アサヒ・サッポロ・ニニオン麥酒醸造元
大日本麥酒株式會社
東京市日本橋區本町二丁目
株式會社田邊元三郎商店
大阪市東區道修町三丁目
株式會社田邊五兵衛商店

第三國權益の蔭から 小癪。我軍を射撃

海の荒鷲猛爆撃を決行

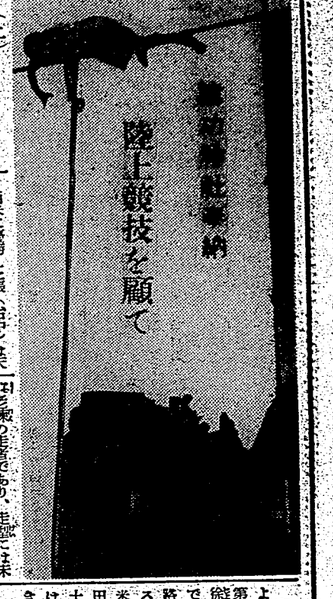
兵を派遣したるは 自衛上當然の處置

厦門興亞院連絡部當局の談

【厦門十二日發本社支局特電】十二日午前一時鼓浪嶼に上陸内陸隊に向ひ午後一時突如大陸の嵩噢アジア石油タンクの第三國權益の蔭に隠れたる敵トーチカ陣地より猛烈なる機銃射撃を受けたため我が軍も直に應戦千米の水道を距て目下を戦中此の敵に對し我が海軍機は二時、四時半の二回に亙り雨雲を衝いて痛烈巧妙なる爆撃を行ひ爆煙天に沖し厦門海岸は見物の人山である、尚一部海軍機は大擧午後二時漳州石碼方面の奥地を痛爆敵に大打撃を與へた

【厦門十二日發本社支局特電】厦門視察團一行は十數台の自動車に分乗、五通海岸及び各爆撃地に到着するや、先づ修繕、陸戦、戦闘等あり、爆撃戦術の実演の後、引續き戦闘機による空中戦の模様を観覧した、先づ修繕、陸戦、戦闘等あり、爆撃戦術の実演の後、引續き戦闘機による空中戦の模様を観覧した、

【厦門十二日發本社支局特電】厦門視察團一行は十數台の自動車に分乗、五通海岸及び各爆撃地に到着するや



（上）
豐功神社參納陸上競技會は四月二十九日、三十日の兩日午後一時より新緑の台北帝大競技場に於て挙行された。當日は低調であつたが、都風なるスポーツ精神に燃える個人の意氣は物凄く、熱戦到る所に現出されたことは認むべき現象と言はねばならない、以下當日の模様を記さう

（下）
豐功神社參納陸上競技會は四月二十九日、三十日の兩日午後一時より新緑の台北帝大競技場に於て挙行された、當日は低調であつたが、都風なるスポーツ精神に燃える個人の意氣は物凄く、熱戦到る所に現出されたことは認むべき現象と言はねばならない、以下當日の模様を記さう

■百米、二百米■

百米に優勝した舘（台中）は天賦の資力に惠まれた好スプリンターである、發走は巧ではないが、飛躍的なストライドを利して後半猛然と出るあたり、非凡な素質が現れてゐる、記録の上では二着と僅少の差に過ぎぬとは言へ、その實力は斷然拔きん出てゐる、十一秒五のタイムは感心出來ぬものではないが、當日のトラック狀態から考へれば止むを得ない結果であらう

二百米の優勝を獲つた伏（台北）は天賦の素質に惠まれた好スプリンターである、發走は巧ではないが、飛躍的なストライドを利して後半猛然と出るあたり、非凡な素質が現れてゐる、記録の上では二着と僅少の差に過ぎぬとは言へ、その實力は斷然拔きん出てゐる、十一秒五のタイムは感心出來ぬものではないが、當日のトラック狀態から考へれば止むを得ない結果であらう

■四百米、八百米、千五百米■

有望な中、長距離の諸選手考慮の末、四百米、八百米、千五百米の三種目に出場することゝなつた

船田はよい體格を持つてゐるしフォームもしつかりして居る、體を充分に發揮したら十六秒はすぐにでも出る筈だ、今後の期待すべき人であらう

八日米に華奢な見せた林（宜蘭）は強い脚力に惠まれ、地味ではあるが、しつかりしたフォームを持ち、氷るやうな寒い中等学校第一線に於いてもその活躍を期待するに足りよう

千五百米に優勝した劉所（北二）もなくくただ獨り外を圧倒一つで投込んで氷る石田の攻略に成功すれば帝大の一勝はゆみ餅事ではないのである、元來石田の様な投手とには強い力と比較的効果の少ない投手であるから、帝大は石田を攻略するまで攻め續けると思ふ、その上西郷が出れても居ようならそこそこ攻め續けると思ふ、その上西郷が出れても居ようならそこそこ攻め續けると思ふ、その上西郷が出れても居ようならそこそこ